【2017年(平成29年)度 SGH指定2年目事業記録】

① インターナショナルヤングリーダー育成プログラム **2017** 3月30日(木)~4月1日(土)

International Young Leaders Advancement Programme (IYLAP) 2017〔言語: 英語〕

高1 GAコース生を対象に英国ケンブリッジから来校した BlueBridge Education (Cambridge 大学 Homerton College で国際教育プログラムを委託開講)との共催で、新高校1年生44名に対し、英国人教員4名がオリジナルのカリキュラムに基づいてオール英語によるリーダーシップ研修を実施した。研修の最後には参加者が英語でプレゼンテーションを行い、修了証が授与された。









② 外国人研究者によるグローバルセミナー

第10回6月6日(火)〔言語:英語〕

講 師: Riham Mohamed 医師 (スーダン)

テーマ: "Can we stop the rising epidemic of Diabetes in Sudan?" 「スーダンにおいて深刻化する糖尿病を食い止めることはできるか?」

第11回6月20日(火)〔言語:英語〕

講 師:京都大学大学院 医学研究科 Dai Yingxue (戴 映雪) 研究員 (中華人民共和国)

(中華人民共和国 四川省 成都市疾病予防コントロールセンター勤務)

テーマ: "She is cracking an egg"









第12回 9月 26日 (火)〔言語:英語〕

講 師:京都大学大学院 医学研究科 研究員 Mahmoud Abdelghany Ibrahim 歯科医師(エジプト) テーマ:"My Global Journey: From Egypt to Japan"「私のグローバルな旅路:エジプトから日本」

第13回11月28日(火)〔言語:英語〕

講 師:京都大学大学院 医学研究科 S. Pilar Suguimoto 講師 (ペルー)

テーマ: "Peru: progress and challenges in health"「ペルー: 健康における進展と課題」









③ 高槻高等学校 グローバルヘルス・シンポジウム 5月30日(火)12:10~14:10 〔言語:英語〕

ゲスト講師: ロンドン大学 衛生熱帯医学大学院 学長 ピーター・ピオット博士

ロンドン大学 衛生熱帯医学大学院 教授 ハイディー・ラーソン博士

京都大学大学院 医学研究科 教 授 木原正博 博士(国際保健学講座 社会疫学分野)京都大学大学院 医学研究科 准教授 木原雅子 博士(国際保健学講座 社会疫学分野)

ゲスト参加: ナワミンタラチヌット サトリウィッタヤ第2高校 生徒5名, 教員2名 (タイ王国)

プログラム

- (1) 基調講演「世界の人々がより健康的な生活を送るために 日本の中高牛へのメッセージ」
- (2) 生徒発表 テーマ:「食糧問題と貧困肥満」
- (3) パネルディスカッション [パネラー:ゲスト講師4名、生徒5名]

4名の著名なグローバルヘルス分野の研究者(ロンドン大学衛生熱帯医学大学院ピーター・ピオット学長、 同大学院ハイディー・ラーソン教授、京都大学大学院医学研究科木原正博教授、同研究科木原雅子准教授) を迎え、「グローバルヘルスシンポジウム」を開催した。1976 年にザイールでエボラウイルスを共同発見 し、1995年から2008年まで国連合同エイズ計画(UNAIDS)初代事務局長を務められ、国連事務次長も兼務 された、ピーター・ピオット学長から基調講演が行われ、その後、高校2年生による貧困肥満に関する課題 研究の個人発表が続き、4名のゲスト講師、5名の本校生徒、来日中のタイの高校生1名との間で行われた 建設的なパネルディスカッションで締めくくりとなった。中3から高2までの GA コースの生徒約 100 名 がすべて英語で行われたシンポジウムに熱心に参加した。この企画は、GAコースの教育にご支援を下さっ ている木原正博教授からのお誘いによって実現できた。









④ GA コース特別集会 6月20日(水)〔言語:英語〕

スタンフォード大学 国際異文化教育プログラム (SPICE) ディレクターの Gary Mukai 博士が来校され、 中3から高3までの生徒約70名に対し、特別集会を実施した。スタンフォード大学、Stanford e-Japan、 Stanford e-Takatsuki の紹介の後、本題である「グローバルマインドをどのようにして身につけるか」に ついて、興味深いお話しをして頂いた。博士によれば、「しっかりとした知識をもつ」「効果的なコミュニ ケーションの力をつける」「世界の国々は相互依存関係にあることを理解する」「多角的な観点から物事を 見る」「新しい考え方を追求することにも心を開く」の5つの要素が最重要ということでした。







⑤ 2017 年度 次世代リーダー養成プログラム 7月25日(火)~8月4日(金)

場所:イギリス連邦 Oxford 大学 Lady Margaret Hall

参加生徒:40名(高2…1名 高1…39名) 引率教員:3名

5回目となる英国でのリーダーシップ研修は、56名の希望者から選抜された意欲ある40名が、校内での 5回の事前研修の後、オックスフォード大学 Lady Margaret Hall を会場として、下記5つを柱とするプ ログラムに参加した。①グループディスカッション②英語集中授業 ③専門家によるレクチャー ④個人 プレゼンテーション⑤ケンブリッジ、オックスフォード、ロンドン市内観光(※③はオックスフォード 大学医学部 解剖学ディレクター Tom Cosker 氏および Amazon UK Strategic Vendor Services の Brand Specialist である Alexandra Damgaard 氏)









⑥ 2017 年度 次世代リーダー養成プログラム プレコース ボストン語学研修 + ホームステイ

日程:7月28日(金)~8月7日(月) 場所:アメリカ合衆国 ボストン、ニューヨーク

参加生徒:30 名(中3 … 30 名)引率教員:3名

昨年度に引き続き、下記の7つを柱とする次世代リーダー養成プログラムのプレコースをアメリカボストンにて実施した。①世界屈指の文教都市ボストンでのホームステイ、②ホームステイ先からの公共交通機関(地下鉄・バス)による通学、③本校生でクローズドの英語研修と英語での個人プレゼンテーション、④世界のトップ大学(ハーバード大、MIT)への訪問および学生・院生との交流、⑤外部講師による英語でのレクチャー、⑥ボストンでのアメリカ史の学習、⑦ニューヨーク観光 ハードなプログラムにもかかわらず、参加した30名の生徒は十分積極的に取り組んだといえる。彼らのグローバルマインドの醸成に大きく資すると期待される。









⑦ 文部科学省主催 平成 29 年度 第1回 SGH 連絡会 指定校報告 (分科会)

第1グループ [15:20~16:30(70分)]

場所:筑波大学東京キャンパス文京校舎 5 階 558 講義室 人数:14 名

【題目】「グローバルヘルスの観点から取り組む国内学習、海外フィールドワーク・発表会の考察」

【要旨】本校 SGH 事業においては、生徒が高度な課題研究に取り組めるように、同一法人下にある大阪医科大学、大阪薬科大学をはじめ、国内は京都大学、大阪大学、神戸大学など、海外は国立台湾大学やスタンフォード大学との高大連携事業や海外の高校や海外 NPO との連携プログラムを積極的に推進している。本分科会では、本校 SGH 事業のフレームおよびアソシエイト校時代からの具体的な実践事例を、海外フィールドワーク・プレゼンテーション・ディスカッションでの生徒の成長の様子に焦点を当て、紹介すると同時に、そのノウハウについて参加校の先生方と情報の共有に努めた。







8 2017 年度 スタンフォード大学オンライン講座 9月 30日(土)~3月〔言語:英語〕

Stanford e-Course on Global Health for Takatsuki Senior High School 2017-2018

(http://spice.fsi.stanford.edu/news/global-health-takatsuki-senior-high-school)

今年度で3期目となる本校とスタンフォード大学国際異文化教育プログラム (SPICE)[代表:Gary Mukai 博士]が共同開講する本講座では、受講生は同大学の研究者による国際的な取り組みの実践を通してグローバルへルスの重要性を学ぶ。高校1年生45名が受講した。

【2017年度 VC(バーチャルクラス)の日程】

第1回 VC [9月30日(土)]

講 師:SPICE ディレクター Gary Mukai 博士, Sabrina Ishimatsu オンライン講座担当講師 テーマ:『コースガイダンス』

第2回 VC〔10月18日(水)〕

講 師:カリフォルニア大学サンフランシスコ校 医学部 助教 Karen Mu 先生 (精神医学)

テーマ: "Global Mental Health" (世界のメンタルヘルス)

第3回 VC [11 月 4 日 (土)]

講 師:スタンフォード大学医学センター 准教授 Phillip Yang 先生(心臓血管外科)

テーマ: "Stem Cell Research" (幹細胞の研究)

第4回 VC〔12 月 16 日(土)〕

講 師:TeachAIDS アシスタント Christine Lynn Chen 先生、Jonathan Pang 先生、Katie Schneider 先生

テーマ:TeachAIDS の活動とグローバルヘルスの分野での学びと活動

第5回 VC [1月27日(土)]

講 師:ヘルス テクノロジー コンサルタント Bertina Yen 先生

テーマ: "Health Information Techonology" (健康情報技術)

第6回 VC〔2月10日(土)〕

講 師:スタンフォード大学リサーチアソシエイト Fumiaki Ikeno 先生 (スタンフォード大学 心臓血管外科医)

テーマ: "Entrepreneurship of medical devices" (医療機器をめぐる起業)

第7回 VC [2月24日(土)]

講 師:スタンフォード大学 医学部 小児科 教授 Paul Wise 先生

テーマ:Guatemala Rural Child Health and Nutrition Program through Stanford University (スタンフォード大学によるグアテマラ山村地域における子供の健康・栄養プログラム)

第8回 VC〔3月16日(金)〕

講 師:SPICE ディレクター Gary Mukai 博士、Sabrina Ishimatsu 講師

テーマ:総括と修了証の授与

⑨ パラオフィールドワーク 事前セミナー 10月31日(火)

演題:「パラオ共和国と日本 ー 過去・現在・未来 ー」

講師:大阪大学 未来戦略機構 第一部門 特任准教授 三田 貴 先生

⑩ 高2・第3回 パラオ フィールドワーク 11月 12日(日)~11月 17日(金)〔言語:英語〕

各自がすすめる課題研究について、パラオ共和国にて3回目のフィールドワークを実施した。今回は前回に加えて、パラオ政府国務省(国務大臣)の協力を得る事が出来た。

- (1) 現地連携高校 (Mindszenty High School)での学校交流とホームビジットによるインタビュー
- (2) パラオ政府機関(保健省・国立病院・教育省・国務省)への訪問とセミナー・インタビュー
- (3) 在パラオ日本大使館 表敬訪問と特別セミナー
- (4) 現地のライフスタイルを理解するための山村フィールドワーク
- (5) 太平洋戦争激戦の地ペリリュー島訪問と島民との対話集会・インタビュー・フィールドワーク









① 第3回 SGH 特別セミナー 11 月 21 日 (火) 14:10~15:00 〔言語:日本語〕

講師:株式会社 テクノ高槻 代表取締役社長 川崎 望氏 (元本校 保護者会会長)

テーマ:『グローバルビジネスの面白さとこれから求められる人材』





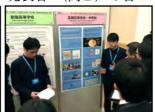




⑫ スーパーグローバルハイスクール (SGH) 全国高校生フォーラム 11 月 25 日 (土)

会 場: パシフィコ横浜 発表者:(高2) 4名







(3) **2017 年 若手パブリックヘルス研究者 京都国際会議 見学** 12 月 6 日 (水) 〔言語:英語〕

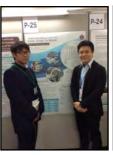
2017 Kyoto Global Conference for Rising Public Health Researchers

場所:京都大学医学部 芝蘭会館

高大連携をさせて頂いている京都大学グローバルヘルス学際融合ユニットよりお誘いを頂き、京都大学医学部社会健康医学系専攻が主催する、文科省スーパーグローバル大学創成支援事業 京都大学ジャパンゲートウェイ構想による標記の国際国際会議(ステージプレゼンテーション、ポスターセッション)の一部をGAコースの生徒7名が見学した。"Interdisciplinary Approach and Collaboration for Health for All (Health for All のための学際的アプローチと協働)"をテーマにロンドン大学、国立台湾大学、マラヤ大学、チュラロンコン大学(タイ)などからの若手の研究者による数多くの発表が行われた。ポスターセッションでは海外研究者に本校生が直接英語で質問を行い、また夕方からのレセプションにも参加した。









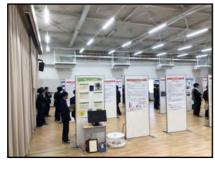


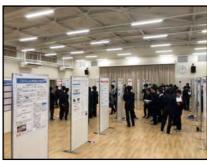




(4) 本校 SGH 事業公開発表会 平成 30 年 2 月 24 日 (土) 午前 9 時 30 分~午後 2 時 30 分

外部の関係者を招待し、第2回となる本校の SGH 事業の発表大会を校内にて開催した。中学3年から高校2年までの各学年の SGH コースの代表生徒による口頭発表および高1・高2の生徒約60名によるポスター発表を実施した。第1回同様、SGH コースの生徒全員がこの発表会で発表を行い、中学3年生も含め生徒間で評価を行った。また、この発表会の機会を利用して、2017年度スタンフォード大学オンライン講座の第7回のバーチャルクラスを一般公開した。







⑤ 高 1 第 4 回「課題研究」中間発表会(台湾研修) 平成 $30 \pm 2 = 23 = 1$ (月) $\sim 3 = 1 = 1$ (木)

生 徒:高校1年40名 教員:3名

訪問先:私立延平高級中学、國立臺灣大學公共衛生学院、私立臺北醫學大學公共衛生学院、

富士ゼロックス台湾、王鼎精密股份有限公司

過年度に引き続き、台湾・台北市の連携高校である私立延平高級中学を訪問し、本校生7グループによる「課題研究」の中間発表会を実施した。その後、大阪医科大学の協定大学である私立臺北醫學大學へ訪問。 李宏信董事(理事)の歓迎の辞に続いて、公共衛生学院院長の郭乃文教授から「台湾の医療の現状」について英語による講義を受け、その後、本校の1グループが教授の前で課題研究の発表を行った。最終日には、 連携をお願いしている國立臺灣大學公共衛生学院へも4度目の訪問を行い、詹長權院長(学部長)による歓迎の辞の後、張書森助理教授(准教授)から「グローバルメンタルへルス」について英語で講義を受け、その後、本校の3グループが教授陣の前で課題研究の発表を行った。一連の高大連携事業は公共衛生学院の鄭守夏副院長(副学部長)がその労をとって下さった。また、日本企業(富士ゼロックス台湾)および新興の時計メーカーである台湾企業(王鼎精密股份有限公司)を訪問し、企業のグローバル展開や社会貢献活動についても学んだ。









専門書 翻訳プロジェクト

2016 年度、京都大学 医学研究科 国際保健学講座 医学部学生・院生とともに、本校高校2年生3名が、専門書『**Global Health 101**』の1章分の翻訳(Chapter 14"Unintentional Injuries")に挑戦したが、2017年9月25日に翻訳書『グローバルヘルス』がメディカル・サイエンス・インターナショナル社から刊行された。

日 時:2016年6~8月

参加者:2016年度高校2年1組3名

原 著: Richard Skolnik 著『Global Health 101』



